

# 患者の皆様へ

2024年6月30日

島根大学医学部附属病院消化器内科

現在、消化器内科では、「好酸球性食道炎における組織線維化の病理学的解析」研究を行っています。本研究は、島根大学医学部長の許可のもと、千葉大学医学部附属病院消化器内科、島根県環境保健公社と共同で行うものになります。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では好酸球性食道炎の診断目的に上部消化管内視鏡検査と組織生検・病理検査を受けられた患者さんの診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。万が一、誤った情報が使われていた場合には情報の訂正・追加・削除といった対応をします。また、場合によっては研究機関の長の判断により情報の利用を停止します。

## 1. 研究課題名 「好酸球性食道炎における組織線維化の病理学的解析」

## 2. 研究の意義・目的

“好酸球性食道炎”は、慢性的なアレルギー反応のために好酸球が食道粘膜に浸潤し、嚥下障害などの症状を引き起こす疾患です。進行すると食道が硬くなり（線維化）、狭くなる（狭窄）ことも知られています。もともと稀な病気ではありますが、近年徐々に患者数が増加しております。診断は上部消化管内視鏡検査と食道粘膜組織の生検・病理組織検査で行われます。

好酸球性食道炎でなぜ食道が線維化を起こすのか、その機序や経過は明らかになっていません。またどのような方が線維化を起こしやすいのかもわかっていません。そこで今回我々は、診断に用いた食道粘膜組織を用いて線維化や免疫細胞などの局在を再評価します。患者様の背景（採血データや基礎疾患など）と照合して、関連性を評価します。この検討を行うことで、好酸球性食道炎における組織線維化のメカニズムが明らかになれば、病態解明と新たな治療方法の発見に貢献すると考えられます。

## 3. 研究の方法

対象となる期間：2011年1月から2027年3月

1) 診断に用いた食道粘膜の生検検体を使用して、新たに特殊染色を追加して、より詳細な組織線維化の評価を行います。

2) 免疫組織染色法を用いて、線維化が起きている組織周囲に存在する炎症性免疫細胞の同定を行います。また糖タンパク質など線維以外の細胞外基質、タンパク分子についても、同様に染色を行います。

3) カルテから得られる情報（年齢、既往症、併存症、アレルギー歴、採血データ、診断時の好酸球数）と組織学的な評価の結果を照合します。

本研究は島根大学医学部、千葉大学大学院医学研究院、島根県環境保健公社にて共同で行う研究となりますが、生検検体についての特殊染色・免疫染色については外部検査機関へと一部委託いたします。

作製された標本やカルテから得られる情報は、郵送やデータ共有という形で千葉大学と島根大学とで共有されますが、その際には氏名やカルテ番号等の個人が特定できる情報は共有されません。

検査後に残った検体は、もともと診断が行われた各施設で再度保管されます。

この研究のデータおよび関連する資料は、千葉大学および島根大学の研究責任者が保管します。また、研究全体に関するデータや資料は研究全体を統括する研究代表者が保管します。研究結果の最終的な公表から10年後までは保管し、その後、保管不要となった時点で個人が特定できない状態で廃棄（消去）します。

#### 4. 個人情報の取り扱いについて

この研究で得られた個人情報が外部に洩れることのないようデジタルデータは島根大学医学部器官病理学講座に設置されているパソコン内にて厳重に管理いたします。また、研究成果の発表にあたっては、解析結果を完全に匿名化し、患者様の氏名やカルテ番号などの個人を特定できる情報は一切公表いたしません。

#### 5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省、厚生労働省・経済産業省が定める「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年3月23日告示）に基づいて掲示を行っています。

島根大学における研究責任者 : 島根大学医学部器官病理学 長瀬 真実子  
本件のお問合せ先 : 島根大学医学部器官病理学  
0853(20)2144

関連施設 : 千葉大学医学部附属病院消化器内科 松村 倫明  
島根県環境保健公社 足立経一